

## 令和元年度 第2回 川崎市小学校教育課程研究会 報告書

分科会名  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">総合的な学習の時間</div> 令和元年8月20日(火)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">会場</td> <td colspan="2">川崎市立川崎高等学校附属中学校</td> </tr> <tr> <td>助言者</td> <td colspan="2">川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">会長</td> <td>赤松 理</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">川崎市総合教育センター</td> <td>石井 芳宏</td> </tr> <tr> <td>提案者</td> <td>川崎市立古川小学校</td> <td>竹内 亮史</td> </tr> <tr> <td>司会者</td> <td>川崎市立小倉小学校</td> <td>船木 愛</td> </tr> <tr> <td>記録者</td> <td>川崎市立西御幸小学校</td> <td>小野 友香理</td> </tr> <tr> <td>世話人</td> <td>川崎市立岡上小学校</td> <td>柴田 大地</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">200名</td> </tr> </table>	会場	川崎市立川崎高等学校附属中学校		助言者	川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間			会長	赤松 理		川崎市総合教育センター	石井 芳宏	提案者	川崎市立古川小学校	竹内 亮史	司会者	川崎市立小倉小学校	船木 愛	記録者	川崎市立西御幸小学校	小野 友香理	世話人	川崎市立岡上小学校	柴田 大地	出席者数	200名	
会場	川崎市立川崎高等学校附属中学校																											
助言者	川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間																											
	会長	赤松 理																										
	川崎市総合教育センター	石井 芳宏																										
提案者	川崎市立古川小学校	竹内 亮史																										
司会者	川崎市立小倉小学校	船木 愛																										
記録者	川崎市立西御幸小学校	小野 友香理																										
世話人	川崎市立岡上小学校	柴田 大地																										
出席者数	200名																											

### 1 提案の概要

6年生「地域スペシャルサポーター」 地域の歴史や文化とそれを支える人々【伝統文化】  
 互いの価値観を認め合ったり、様々な人と進んで関わりあったりしながら、故郷である地域を「より好きに」「より大切に」思い、地域を支える一員として、地域を誇りに思う児童の姿を目指した単元である。地域の魅力探しで気付いた地域のすごさを「川崎市地域文化財」に認定してもらえるようにプレゼンテーションをしたり、校内の文化祭で「地域いいね祭」を開催したりした。

(視点1) 子どもの資質・能力を育む「カリキュラム・デザイン」  
 子どもの学びのプロセスや思考に合わせ、地域や文化財課の人と出会えるように学びのストーリー性を大切に。そのためには、教師が日頃から地域に向けて発見の目を向けていることが大切である。効果的に人やものと出会うカリキュラムをデザインすることで探究的・協働的な児童の姿へとつながった。

(視点2) 探究的で協働的な学習活動

- 課題設定…児童の心が動く瞬間を意図的に作る。教師から「魅力を探しに行こう」と働きかけるのではなく、社会科で学んだ古墳が地域にあるという驚きからつなげた。
- 情報収集…教師の意図と児童の目的に合った情報収集が行えるようにする。地域の人の温かさに気付かせるためにはインタビューを行い、地域のものについて知識を広げるために副読本を使い、地域の人の思いを知るためには講義をしてもらう学習活動を設定した。
- 整理・分析…プレゼンテーションに対して、文化財課の人にレーダー図を用いて評価してもらった。「内容を見直さなきゃ」と新たな課題が生まれ、レーダー図の視点や点数、評価コメントを根拠に内容を吟味し、情報収集をし直すなど探究活動が深まった。
- まとめ・表現…校内の文化祭で伝えた。発信の対象が文化財課の人から下級生へと変わったので、プレゼンテーションのままの発表ではなく、射的などの遊びを通して伝えたり、クロスワードやしおり、プラバンをプレゼントしたりした。相手意識がある発信を行うことでより協働的な姿が見られた。

### 2 研究協議の概要

- ・インタビュー活動が好きな子たちだったので、事前に想定していた。地域の人は歴史について知るの難しいと考え、文化財課の人から得られるようにした。文化財課の人から教えてもらった地域のものを見て回り、どれなら子どもが意欲的に学習するか考えた
- ・5～6回ほど打ち合わせをし、レーダー図の視点を決めたり、文化財に認定されるために必要なポイントなどを確認したりした。プレゼンテーションを事前に送り、評価の内容などを事前に伝えた。

### 3 今後の課題

- ・地域の歴史について調べることで難しさを感じる児童もいる。
- ・文化財顕彰制度では、同じ文化財を扱えない。

### 4 指導講評

<助言者より>

この実践は価値ある実践である。総合的な学習の時間では、課題が自分事になっているか、子どもたちがとことん探究しているか、本物に接しているかが大切。今回は地域のものを文化財なので自分事になった。プレゼンテーションに対する評価は子どもとして評価されず、大人の基準で評価されることで子意欲的に学習に取り組んだ。児童が楽しんで学習するには、何より教師が楽しんで授業を作ることが大切。

<指導主事より>

全体計画は総合的な学習の時間の地図。学習指導要領改訂によって知識・技能を新たに記載する。知識・技能は汎用的・概念的な内容を記す。継続性・創造性のバランスが取れた学習サイクルを。  
 評価規準の作成は、①各学校の総合的な学習の時間の目標と「評価の観点の趣旨」を確認する。②観点ごとのポイントを踏まえ、内容のまとまりごとの評価規準を作成する。

